

企業及びボランティア団体との連携による取組について

～仁別森林博物館・仁別自然休養林を活用して～

東北森林管理局 森林整備部 技術普及課 岡浦 貴富

1 はじめに

仁別森林博物館（写真 1, 2）は、秋田県秋田市仁別地区における森林レクリエーションの中核施設として昭和 39 年に旧秋田営林局が設置したもので、仁別自然休養林内に所在しています。車で J R 秋田駅から 25km（約 50 分程度）の位置にあります（図 1）。例年、博物館の開館期間は 4 月下旬から 11 月上旬（開館日：月・金・土・日・祝日）で、冬期間は閉館しています。

また、仁別自然休養林は、昭和 43 年に前身の「仁別国民の森」として開園し、その後昭和 44 年に自然休養林に指定されています。この仁別自然休養林は、天然秋田スギ、植栽後 100 年以上経ったスギの人工林や、秋には美しい紅葉も見ることできる場所です。自然休養林とは林野庁が国民の保健休養のために指定した国有林のことで、特に風景が美しく、多様なレクリエーションを楽しむことができる森林です。また、平成 29 年には「日本美しの森 お薦め国有林」に選定されています。

仁別森林博物館は昭和 39 年の開館以来、40 年以上が経過したところで施設の老朽化等が目立ちはじめていました。このため、平成 19 年に東北森林管理局が「仁別森林博物館展示改装検討委員会」を立ち上げ、仁別森林博物館の改装と展示内容の見直しを行い、平成 20 年 5 月 3 日にリニューアルオープンしました。

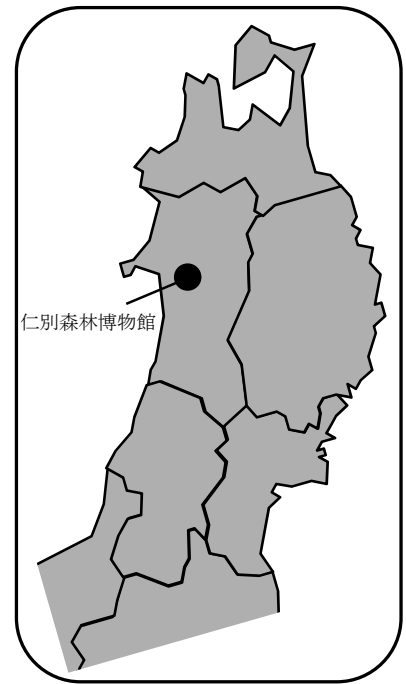


図 1 仁別森林博物館位置図



写真 1 仁別森林博物館の外観



写真 2 仁別森林博物館の館内

2 取組の方法及び経過

（1）アサヒビール株式会社秋田支社との連携

アサヒビール株式会社（以下「アサヒビール」という。）は、社有林「アサヒの森」の森林経営や水源地の

森林保全活動のほかに、平成 20 年から全国の営業拠点のうち 7 箇所で、林野庁の「レクリエーションの森サポーター」の制度を利用し、オフィシャルサポーターとして森林の整備・管理活動の支援を開始しています。

支援拠点の一つであるアサヒビール秋田支社は、平成 20 年 8 月 27 日に仁別森林博物館ボランティア案内人会及び東北森林管理局と仁別自然休養林の支援協定（仁別森林博物館及び仁別国民の森等を活用した体験型森林環境教育等の実施に関する協定（以下「三者協定」という。））を締結し、オフィシャルサポーターとなりました。また、アサヒビール秋田支社及び関連会社の従業員とその家族、仁別森林博物館ボランティア案内人会及び東北森林管理局等と連携し、森林整備活動（アサヒ森林体験活動 in 仁別）についても継続的に行っています。

（２）仁別森林博物館ボランティア案内人会との連携

仁別森林博物館がリニューアルオープンしたことを契機に、自然や森林・林業等に豊富な知識や経験を持った方々が「仁別森林博物館ボランティア案内人会（以下「案内人会」という。）」を平成 20 年 7 月 14 日に発足させ、ボランティアとして仁別森林博物館及び仁別自然休養林の案内を開始しました。平成 29 年度の会員数は 19 名です。

案内人会は、東北森林管理局が管理する仁別森林博物館及びその周辺の森林を活用し、体験型森林環境教育等さまざまな活動を通じて、自然や森林の大切さを多くの人に知ってもらうことを目的としています。

具体的な活動としては、

- ① 来訪者に仁別森林博物館及びその周辺森林を案内
 - ② 仁別森林博物館及びその周辺森林を活用したイベントの企画・運営
 - ③ 仁別森林博物館及びその周辺森林で東北森林管理局が実施するイベントへの協力
 - ④ 会員相互の親睦と資質の向上を図るための講習会等の開催等
- となっています。

（３）三者協定の役割分担（図 2）

①アサヒビール秋田支社は、オフィシャルサポーターとして資金提供、飲料水の提供や森林整備活動等を行っています。

②案内人会は、ボランティアとして博物館や周辺森林の案内・説明、展示やイベントの企画や運営を行っています。また、一般財団法人日本森林林業振興会秋田支部が賛助会員として案内人会に協力しています。

③東北森林管理局では、施設の維持管理、活動に必要な備品等の提供、イベント等の企画・運営に協力等を行っています。秋田森林管理署では周辺森林等フィールドの維持管理をしています。また、秋田市仁別自然休養林保護管理協議会とも連携し、仁別自然休養林の整備活動を行っています。

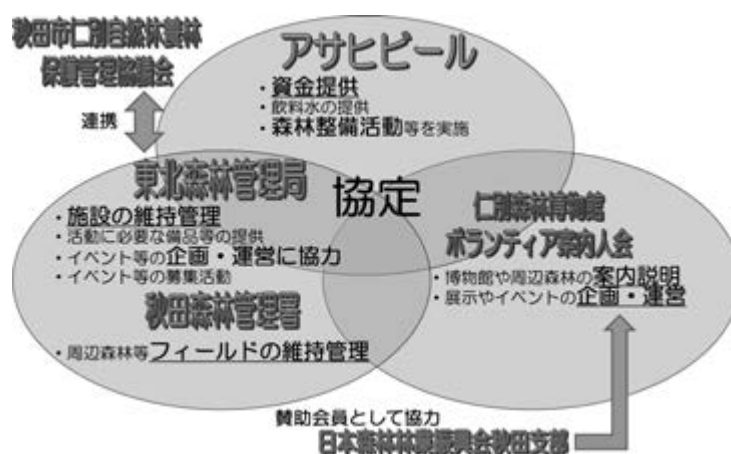


図 2 三者協定の役割分担イメージ

3 取組の成果

(1) 仁別森林博物館における体験型森林環境教育の取組

仁別森林博物館において、案内人会と東北森林管理局が協力して行っている体験型森林環境教育の取組は、自分自身の感覚（見て・触れて・香って・聞いて）を使った「実際に体験しながら、本物から学ぶ」ことを重視したメニューを組み立てて、実施しています。

具体的には、来館者が案内人会や東北森林管理局職員の説明を聞いたり、見たりするほかに、木の香りや木の重さ等を感じたり、種子の飛び方を観察したり、体験学習用ワークシートによる学習活動（木の太さを測ったり、年輪を数えたり（写真3）、方位を調べたり等）を行っています。



写真3 年輪を数えている様子

(2) 仁別自然休養林における体験型森林環境教育の取組

案内人会は、来園者に対して仁別自然休養林の案内や動植物の説明を行うほか、樹木見本園にあるホオノキの葉を使ったお面を製作したり、笹の葉から笹舟を作って川に流したり、イタドリの茎から笛を作ったり（写真4）と、自ら体験することができるメニューも取り入れながら、案内を行っています。

来園者からは「知人にも紹介したい。」や「子供達も楽しめた。」等の感想が聞かれ、評価を得ています。



写真4 イタドリの笛の製作の様子

(3) 森林整備活動（アサヒ森林体験活動 in 仁別）

平成20年度から29年度までに森林整備活動を延べ14回（歩道へのウッドチップ敷設、散策路整備、登山道の清掃、東屋やトイレ施設の整備等）実施しています。これらの活動によって仁別自然休養林を訪れる方が快適に過ごせるようになっています。また、森林整備活動の参加者にとっても良い自己啓発となっています。

平成29年度は、アサヒビール秋田支社の社員や家族、案内人会及び東北森林管理局、秋田森林管理署から合わせて38名の参加があり、冬季の積雪や風雨にさらされて傷んだ仁別森林博物館周辺のトイレ施設、散策路や散策路に架かる橋の整備をしました。この活動でトイレ施設の外観等が生まれ変わったようにきれいになりました（写真5）。

参加者から「気持ち良くペンキ塗りや草刈りなどを行い、充実した活動となりました。」「子供たちも楽しく活動を行うことができた。」等の感想があり、有意義な一日となりました（写真6）。



写真5 森林整備活動の様子



写真6 参加者による記念撮影

（４）入館者数（開館期間：５月上旬～１１月上旬）

リニューアルオープンした平成 20 年の仁別森林博物館の年間入館者数は、その効果もあり約 5,000 人の入館者があり、平成 25 年～28 年の 4 年間の入館者数は年平均 2,000 人前後で推移していましたが、平成 29 年度は秋田県内におけるクマの出没や夏場の大雨被害の影響により約 1,300 人程度に落ち込みました。

また、平成 29 年度の団体利用は、秋田大学、秋田県立大学や秋田林業大学校等の教育関係機関、秋田きのこの会や地域のエコクラブ等の利用がありました。

4 考察

博物館で行っている来館者アンケートの中で、『案内人の説明や対応』に関する回答は、非常に良かった 77%、良かった 23% となっており、ほぼ 100%の方が案内人会の案内や説明等に対して評価をしている結果となっています（図 3）。

このことから、来館者は、案内人会の活動により博物館の展示、森林・林業の知識を効果的に深めることができており、活動に関して一定の成果を得られていることが分かりました。

また、来館者の感想としては、「知人にも紹介したい。」や「子供達も楽しめた。」等の感想が多く聞かれています。

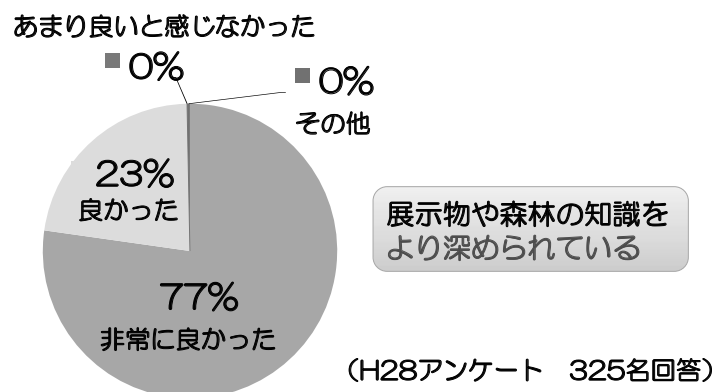


図 3 『案内人の説明や対応』に対するアンケート結果

『博物館に対する意見』としては、「とてもよい施設なので、もっとPRをしてもらいたい。」や「もっとふれあいが体験できるコーナーを増やしてみてもは。」という御意見がありました。今後、来館者の増加を目指し、より多くの方に利用いただくため、来館者の御意見を踏まえた対応として、次の取組を行うことにしています。

（１）魅力ある展示物を東北森林管理局のホームページや広報誌等でPR

実際に森林鉄道を走っていた蒸気機関車のボールドウィン（写真 7）やディーゼル機関車の酒井ボギー式 8t 機（写真 8）、新聞等にも取り上げられた零戦木製プロペラ（試作）（写真 9）、天然秋田スギの円板等を東北森林管理局のホームページや広報誌等で紹介し、より多くの方に仁別森林博物館の魅力を知ってもらい、利用していただけるようPRに努めていきます。



写真 7 ボールドウィン



写真 8 酒井ボギー式 8t 機



写真 9
零戦木製プロペラ（試作）

（２）体験型展示物や学習の常設化

仁別森林博物館での体験型メニューの実施は年数回のイベント実施時に行っていましたが、今後仁別森林博物館の展示物の充実や魅力を高めるため、体験型メニューの常設化を図ります。

具体的には、ワークシートを活用した学習として、樹種の違いによる木の香り（スギ、ヒノキアスナロのおがくず）や木の重さの違いを感じてもらったり（写真 10）、測定器具（輪尺^{りんじゃく}）を使って木の太さを測定（写真 11）できる体験型学習を常設します。また、引き続き仁別森林博物館を低年齢層にも楽しんで頂けるように幼児用にスギの間伐材を使用した積み木を常設（写真 12）します。



写真 10
木の香りと木の重さの違いを
感じることができる学習メニュー



写真 11
木の太さの測定体験の様子



写真 12
積み木（スギ間伐材）の設置

最後に、アサヒビール株式会社秋田支社、仁別森林博物館ボランティア案内人会と東北森林管理局が協定を締結して活動を行うことにより、仁別森林博物館の魅力が向上し、仁別自然休養林が整備されて、この場所を訪れる方が十二分に仁別森林博物館や仁別自然休養林を満喫することができるようになっています。今後もより多くの国民の皆様に仁別森林博物館や仁別自然休養林が利用されるよう、より一層工夫しながら取り組んでいきます。